

フィールド・オブ・ドリームス

蓬 萊 昭 彦 (80期)

私は、今年45歳になりました。

子供の頃から何時も身近にあったのが野球という遊びでしたが、それが年とともに野球という仕事、職業野球に変わっていきました。

小学校の頃は父親に学び、中学の頃は魚市の監督、そして、私が歩んだ野球人生の中で、熊本工業高校時代は八波監督の指導の元、精神的に強く、勝つための野球を学んだように思います。

しかし、人生の中でここまでの野球は一方的に学び、教わってきたように感じています。

私は実業高校出身という事で、私自身大学に進学する事に対して否定的でしたが、高校3年の夏の甲子園予選敗退後に、これから自分は何に向かって頑張っていくのか目標がなくなっていた時、自分自身何かを探すつもりで、明治大学野球部のセレクションを受けてみる事にしました。

しかし、大学のセレクションに参加してみて自分自身の野球に自信がもてない事に気付きました。

何故かというと、熊本工業高校時代の3年間は甲子園という目標があったために辛い練習にも耐え、先輩後輩による人間関係など、様々な事に辛抱が出来たように考えています。

確か高校時代の野球部員で最後まで残っていた同級生は10人と記憶しています。

厳しかった熊本工業高校時代に3年間、これから始まろうとしている厳しい明治大学の練習、そして環境に、これから私が4年間我慢し、精神的に野球に打ち込められる状態でいられるのか大変不安に感じ出していたのです。

現に熊本工業高等学校時代の春の甲子園大会に出場した私の同級生全員が高校卒業後、硬式野球を誰もする事はなかったのです。

その思いが心の中に残り、明治大学野球部のセレクションを受験した結果、私の心のどこかでやられるより、やる野球のほうが、楽しく、長く出来そうな気がしてきたのです。

そんな心の変化があった時に出会ったのが、後の恩師である西南学院大学野球部の高田駒次郎部長と野本監督だったのです。

まさに選手自身の自主性を重んじ、自由を大切にしてくれた教育だったように思います。

実際、私が明治大学に進学していたら、子供のときから続けていた野球は続かなかったかもしれません。

さて、私を含めて熊本の九州学院から久保田、松村、大槻と4人の出来の悪い学生を商学部で4年間面倒を見て頂いて、言葉では一杯あり過ぎてお礼を言い尽くせません。

朝は本当に汚い寮（後に危険建築物で取り壊し）の掃除から始まり、昼は麺類、午後から野球の練習、夜はビールと焼き鳥をご馳走になり、一日中高田先生という事が本当に多かったように記憶しています。

私達の他にも沢山の人が、人気者高田駒次郎部長の回りに居て、お世話になっていたように思い

ますが、特に出来の悪い我々に目を掛けて頂きました。

試験中も野球部は答案用紙に手が進まず、高田先生に後ろからよく頭を殴られ、空手部の日野監督からはカンニングをしていないのに、(冗談で) 隣を見るのが上手と褒められたり私は本当にこの西南学院大学、そして高田駒次郎部長と出会えて良かったと思っております。

先程、紹介した出来の悪かった久保田、松村、大槻も西日本銀行の支店長に昇進したと

つい先日、連絡を頂き高田先生だったら、何

と言って祝福されるかと考えたのですが、やはり浮かぶ言葉は『シャーガラルツ』ですね。

つい先日、親子でケビンコスナー主演の映画、フィールドオブドリームスを見たのですが、映画の中でトウモロコシ畑のグラウンドから出て来る故人のメジャーリーガーのユニホームの着こなし方が高田駒次郎先生とダブって見えて何度か巻き戻して見てしまいました。

きっとあの映画のように高田駒次郎先生は天国でも大きな声でベースボールを愛し続けている事でしょう。

最後に、高田駒次郎先生と同じ時代に同じユニホームに袖を通した、全ての人達の心残りは神宮で高田駒次郎先生を胴上げしてあげられなかった事なのです。

ですから、西南学院大学野球部のみなさん、勝手なお願いですが私達が出来なかった高田駒次郎先生の夢を是非、叶えて頂きたいと思います。

こんな野球に熱く、人に熱い人間が西南学院大学野球部長にいた事も絶対に忘れないでリーグ戦を戦って下さい。

硬式野球部の主力選手として攻守に大活躍した蓬萊^{はうらい}昭彦君(商四)が西武ライオンズに入団する



蓬萊君 (商 4)

プロ野球へ

(西武 ライオンズ)

ことになり、その正式発表が去る十一月二十七日東京で行われた。十一月二十七日のドラフト会議で西武よの四位指名、十二月四日入団内定と契約交渉は順調に進み十一月二十七日の正式発表となった。

蓬萊君は身長一六七センチと小柄だが俊足と強肩は有名。一年生の時、九州六大学野球秋季リーグ首位打者。二年、三年生一ベストナイン。ドラフト会議の当日、下宿で寝ていてスカウトからの電話ではじめて指名されたことを知ったという「のんびり屋(？)」だが、入団してからは「体があんまり大きくないので人の倍は練習して、他の選手に負けないようガンバリたい」とその意気込みを語っていた。

西南学院大学広報第51号 (昭和55年 1月30日)